

幼保小連携推進だより



きたスマイル



令和2年11月発行No.22
北区幼保小連携推進協議会代表者会
札幌市立白楊幼稚園

今年度の北区幼保小連携推進協議会の2回目の研修は、代表者が集まり、予定していた内容を凝縮して行いました。その様子をお伝えします。

「接続期の生活や学びのつながりを考えよう」

DVD「コマに夢中！」(「映像で見る 主体的な遊びで育つ子ども あそんでぼくらは人間になる」エイデル研究所)を視聴し、幼児の遊びに取り組む様子から、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)を見取って話し合い共有しました。

■【動画：5分間】～下記の内容は解説書からの抜粋です。

園舎の一角にコマ回しの空間がある。園長の目の前で5回連続コマ回しに成功すると、自分の名前の書かれたコマがもらえるルール。コマ回しを始めたばかりのだいき。決してあきらめずに、投げる動作を繰り返す。初めてコマ回しに成功。数日後、連続で成功するようになっていた。園長に声を掛けて、5回にチャレンジ。ところがさっきまで、うまくいっていたはずなのに園長の見ている前では、何度やってもうまくいかない。「乗り越えてほしいし、それだけに乗り越えた時は喜びも大きい」と園長。さらに数日後、5回連続にチャレンジ。4回連続で成功する。友達の声援を受けて、ついに5回目に成功し、思わずガッツポーズ。「おめでとう」と手渡された自分だけのコマを、じっくりかみしめるように眺めるだいきだった。

■【研修の方法】

☆「だいき君の姿からどんな『10の姿』が見取れるだろうか」

- ・動画を一度見て、10の姿のプリントに目を通し、再度、動画を見る。
- ・気付いたことをプリントに記入し、互いに出し合う。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 (10の姿)

- ・健康な心と体
- ・自立心
- ・協同性
- ・道徳性・規範意識の芽生え
- ・社会生活との関わり
- ・思考力の芽生え
- ・自然との関わり・生命尊重
- ・数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- ・言葉による伝え合い
- ・豊かな感性と表現

ここでポイント！

幼稚園教育要領解説P90～93に「5
小学校教育との接続に当たっての留
意事項」が記されています。代表者
で読み合って研修を始めました。



<お知らせ>

■【第3回北区幼保小連携推進協議会】

1月18日(月) 札幌エルプラザ3階ホール

14:00～(時間は各学校・園による)

連絡会(引継ぎ会)のみとなっております。

※現時点での予定です。状況によって変更になる場合
があります。御了承ください。

■【研修を終えて】

- ・一つの活動からたくさんの「10の姿」があることを発見し、子どもと関わる人が気付ける力を養うことができる。
- ・職員同士が同じ価値観（気付き）で共有できる。

- ・子どもの育ちを理解していく視点、育つ力を肯定的に見ていくことを改めて感じた。
- ・子どもたちにどのような経験をしてほしいか、環境を整えていくこと、また〇〇できたという成功体験を増やしていくことが大事である。

- ・「10の姿」については資料などで知識としては知っていたが、今回の研修でイメージが広がった。
- ・園生活の具体的な姿から、どんな「10の姿」を見取れるかを交流することで育ちの共有につながった。

- ・5分間の動画の中にいくつもの「10の姿」が見られ、園生活において日々成長している。
- ・常に「10の姿」を考えつつ保育をしていくと対応が変わってくるのではないかと思う。
- ・園内研修につなげ、共通認識をもって子どもに関わるようにしたい。

- ・普段、保育者や教師は子どもたちと当たり前のよう一緒に生活している。ぜひ、時間を設けて職員と「10の姿」を探し確認したい。

- ・遊びの中でいろいろなことを経験している。声や表情等から心の動きをも見取り、認めることで学びとなり、次への意欲につながる。生きる力の土台である。自発的で主体的な生活のできる幼児期は大切である。



【接続期に大切なことって何だろう…】

- ・幼稚園、認定こども園、保育所の生活や学校生活をお互いに見合うことが何よりも理解につながる。
- ・要録を活用する。学級編制時のみではもったいない。その子の成長過程が記されている。その後も役立つ！
- ・このように具体的な姿から子どもの興味関心や心の動きを共有し合うことが、幼児期、小学校中学校と一連の流れで育っていく子どもたちの理解につながる。幼児期のことをもっと知ってほしい。
- ・実際に幼保小が集い、研修や連絡会をすることで理解が深まっている。貴重な時間である。
- ・卒園前（幼稚園・認定こども園・保育園）と入学後（小学校）で、子どもたちがどのように生活（学習）しているのかを、園と学校がお互いにイメージして子どもたちに関わることが重要である。
- ・入学前には、「文字や数字を読んだり書いたりできるように…」など、身に付いていることが分かりやすい力（認知的スキル）に目が向いてしまうことがある。しかし、粘り強さややり抜く力、感情を調整する力などの非認知的スキルは、思うようにいかず行き詰ったときや難しいことに出会ったときに乗り越えていくための大切な力になる。幼児期学童期共に、認知的能力だけでなく、見えにくい非認知的能力にも重点をおいて、子どもたちを育てていきたいものである。